

光受寺通信

NO.199

R7・8・1 発行

発行元 光受寺



今年の夏は格別に暑かった。35度前後の気温がこれほど続く夏は今までに経験したことがない。しかもこの気温に湿度が加わり、蒸し暑さで熱中症寸前のバテバテの毎日だった。

この状況は温暖化現象の顕著な兆候であると思われるのだが、もしそうであるならば、2070年までには、気温は7.5度も上昇すると予想されていることも現実味を帯びてくる。

氷河は溶け、海面は上昇し、沈みゆく島や国、生態系への影響いうまでもなく、食料生産への影響は必至とある。地球全体がゆっくりとし、しかも確実に壊れていくような気がしてる。

さて、今更ながらではあるが、温暖化の主な原因は二酸化炭素の排出だといわれている。私たちは快適で、便利な生活を得るために環境を犠牲にして生き続けてきたことを思う。目先の利益だけに目を奪われて、将来を忘れてはいなかったか、今一度思いをめぐらす時が来ているように思う。

あらゆる物の物価の高騰に悲鳴を上げ、米の不足に食への不安を募らせられた。このまま、この地球の温暖化が続けば、やがては米も野菜も生産できなくなり、いくら高くても購入できない食糧危機の時代がやってくるような気がしてならないからだ。

「今だけ、金だけ、自分だけ」の思いでは、とうていこれからの時代を生き抜いていくことはできない。日本だけでなく世界がこのことに真から目覚め、この美しい地球を守っていくことが、私たちに課せられている切なる願いとならなければならぬ。

地球がダメなら月があるさ、宇宙があるさ、は単なる人間の欲望に過ぎない愚かな思い上がりである。足るを知らない人間の愚かさである。宇宙まで壊そうとしている愚かさである。

真宗門徒についての「お盆」とは

私たち真宗門徒のお盆は、一般的に言われている追善供養（故人がより良い世界に生まれ変わることを願うとともに、その善行が自分自身にも返ってくる）のために迎えるものではありません。

亡き人を「諸仏」といただき、私たちを真実の生き方へ導いてくださる仏さまと受け止め、亡き人の方から私たちに「真実に目覚め、真実に生きよ」と呼びかけて下さっていることに気づかせていただく、大切な「問法の機縁」として受け止めているのです。

このことはお盆に限らず、月命日や、いし法事も同じ受けとめをしているのです。よく「長い間、十分供養させていただきました」とか、「お仏壇やお墓のお守りをさせていただきます」とか、お話しくださることもあるのですが、「亡き人から案じられていたわが身であった」と気づかせていただくことが真宗であるとするならば、「私が」で行う仏事は追善供養と質的に何ら変わりはない発想だと思われます。

久しぶりの里帰り。お仏壇や、お墓に手を合わせ、人間として命をたまわったいのちや生きる意味を問うていただくことが、何よりの先祖を大切に思う心であり、真宗のお盆であると思います。

「はお盆にはお盆には欠かせないものなの？」

日本の風習ではお盆には欠かせないお花だと思ひ込んでいます

が、「はお盆」であつてもなくてもだわることはないと思ひのです。

「はお盆」をお盆に使うのは、「ご先祖様の霊を迎え、道案内をする提灯に見立てて飾るため」として使われていたからなのです。

そもそも真宗ではお盆には「霊」とか「先祖」がどこから還つてこられるという受け止めはしません。真宗のお盆は前記事の説明のごとくですが、親族が集えるこの機会に、みんなでそろってお参りすることは大切な日本の風習であり文化であり大切に守つていきたいことです。



大雨の中、お寺サロン開かれる。(7月17日) 木 1時半〜

「数日のお天気は荒れ模様。全国では雨や風による被害も出てきているようです。」

そんな中ではありませんでしたが光受寺において、お寺サロンが開かれました。傘も役に立たないくらいの大雨の中でしたが、8名の方々が参加してくださいました。

「座ってできるシア体操」をテーマに、楽RAKUカイロの伊藤喜美江さんのご指導の下、皆さん大いに楽しみながら体を動かしておられました。

住職も頑張つて参加してみましたが、思ったよりキツイ運動でしたが、音楽に合わせて軽快に楽しむことができました。

廣専寺の若院さんからは、全国組織になったという児童教化連盟の活動についてのお話いただきましたが、真宗大谷派 児童教化連盟から出されている冊子『いのち』に掲載されている「詩」を紹介してくださいました。(下段掲載1985年、18歳だった岡本理恵さんの詩です。

強い衝撃が与えられた詩でした。今では40歳ほどの彼女の詩から、私たちはどんなメッセージを受け取ることができるのでしょうか。 ↓



一番好きなもの

岡本理恵(18歳)

私は高速道路が好きです

あのスモッグで汚れた風が好きです

私は魚が死んでいる海が好きです

私は「ミでいつぱいの町が好きです

殺人 詐欺 自動車事故が好き

そして 何より好きなのは

多数の人が涙を流す

血を流す

戦争が大好きです

飢えと寒さの中で

戦つて死んでいく姿を見ると

背中がぞくぞくするほど

楽しくなります

毎日毎日

大人と

子供が

生まれたばかりの赤ん坊が

次から次へと

死んでいるかと思うと

心がゆったりします

過去を過去として思う

無感情な

時の流れに、自分自身に

たまらなく喜びを感じます

こんな私を助けて下さい

誰か助けて下さい

たった一粒でもいいのです

涙というものを与えてください

たった一瞬でもいいのです

こんな私に

尊さというものを与えてください

私の名前は

人間といえます

この詩の感想をお聞かせください。

□頭でもメモでも結構です。

一言でもいただければ、ありがたいです。よろしく願います。

お知らせ

お寺サロン

8、9月は休み。

光受寺学習会

8月は休み

今月の掲示板

暗闇だからこそ

光に気づく

浄土宗 徳性寺 掲示板

仏教においての「無明」とは、人間の苦しみや迷いを生み出す最も根本的な原因です。どんな人間でも、少なからず心の闇(無明)を抱えています。仏様(阿弥陀仏)の光はそんな私を常に照らし続けてくださっているのです。

仏教で「光」は仏さまの「智慧」や「慈悲」を表します。光を通して自分自身が抱える闇を見つめ、本当の自分の姿に気づいていくのです。

